

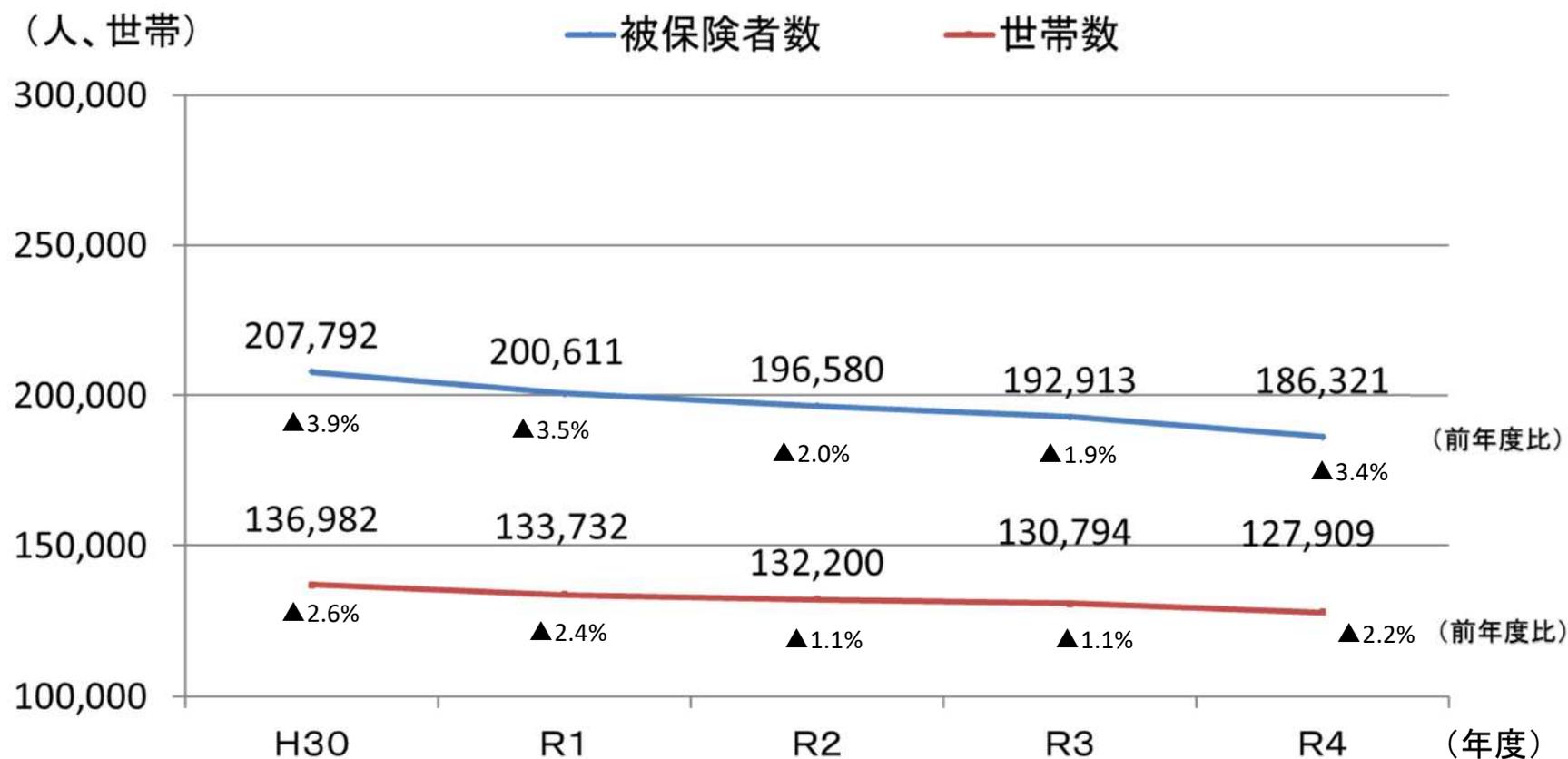
議題

令和4年度 北九州市国民健康保険事業の運営について
(令和4年度 国民健康保険特別会計決算見込み等)

目次

- 被保険者数・世帯数の推移 . . . P1
- 一人当たり医療費及び保険給付費の推移 . . . P2
- 一人当たり保険料の推移 . . . P3
- 令和4年度国民健康保険特別会計決算（案） . . . P4～5
- 政令市の状況（高齢化率・病院数） . . . P6
- 保険料収納率の推移 . . . P7
- 医療費適正化の取組み . . . P8～9
- 新型コロナウイルス感染症対応の主な取組み . . . P10

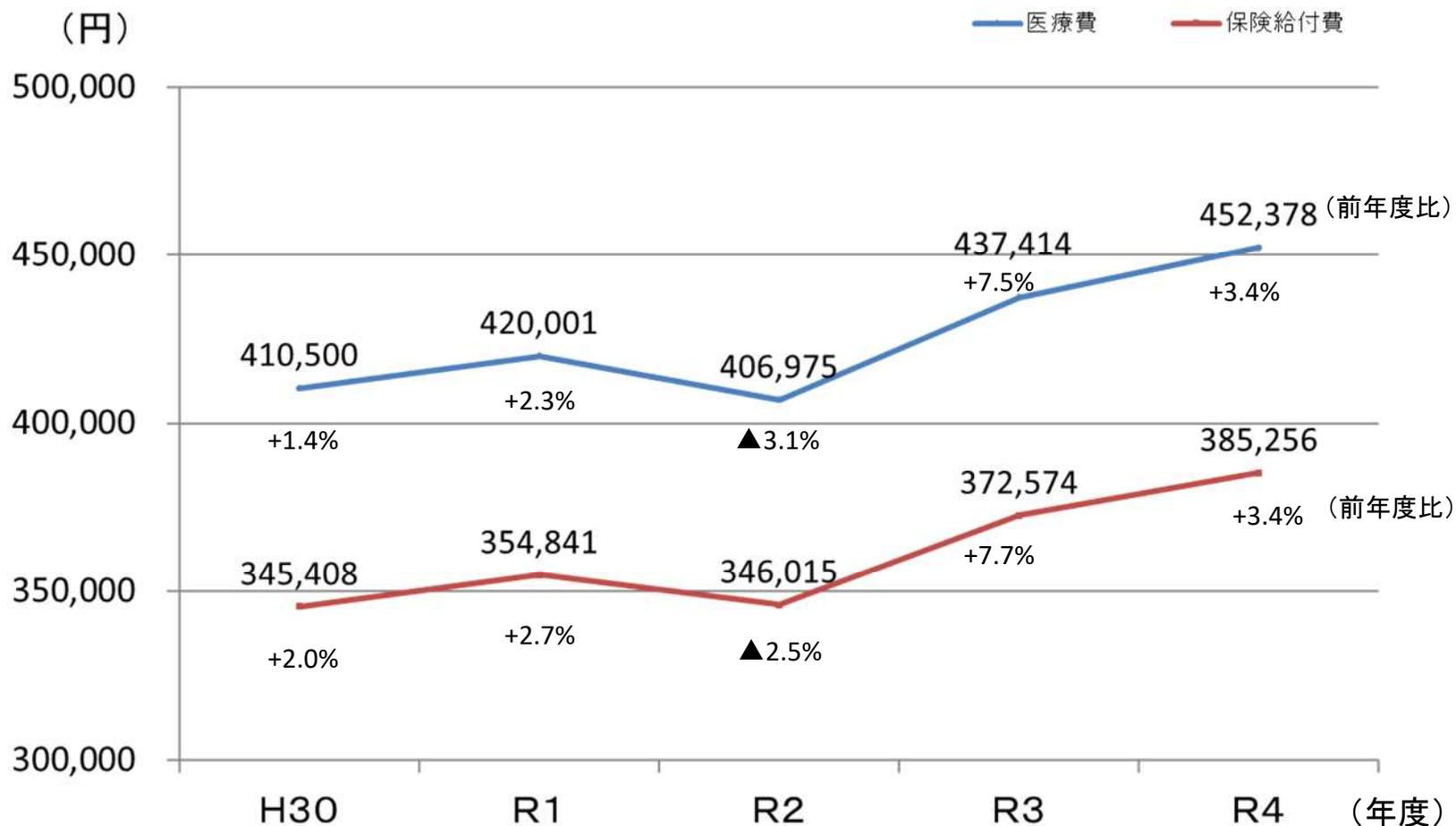
被保険者数・世帯数の推移



ポイント

後期高齢者医療制度（75歳以上）への移行により、被保険者数・世帯数は減少。

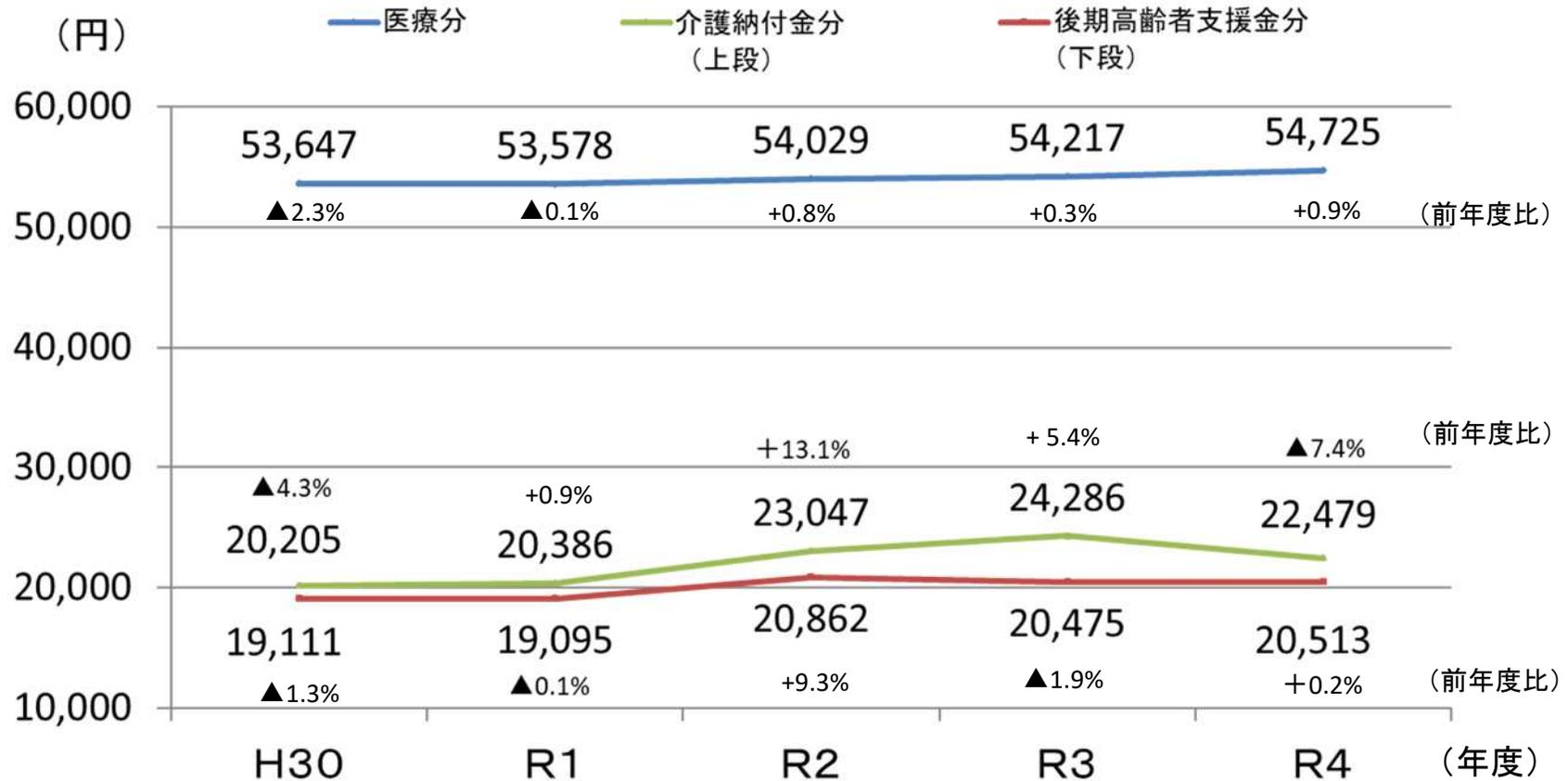
一人当たり医療費及び保険給付費の推移



ポイント

一人当たり医療費及び保険給付費は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え等により一時的に減少したものの、令和3年度は受診控えの解消等により再び増加に転じ、令和4年度も高い状態が継続。

一人当たり保険料の推移



ポイント

令和4年度の一人当たりの保険料は、介護納付金分が7.4%(約1,800円)減少。医療分は0.9%増加したものの、繰越金の活用により保険料の上昇を約500円に抑制。

令和4年度 国民健康保険特別会計決算（案）（1）

歳入

（単位：百万円）

項目	令和4年度	令和3年度	増減	主な増減理由
保険料	14,625	15,299	▲674	被保険者数の減など
国庫支出金	1	82	▲81	新型コロナウイルス感染症にかかる保険料減免の補助金の費目変更
県支出金	73,450	74,700	▲1,250	普通交付金の減など
一般会計繰入金	10,637	10,971	▲334	軽減対象被保険者数・世帯数の減など
その他	3,670	3,572	98	繰越金の増など
合計	102,383	104,624	▲2,241	—

ポイント

被保険者数の減により、保険給付費が減少したことに伴う県支出金の減等により、総額で前年度比約22億円の減少。

令和4年度 国民健康保険特別会計決算（案）（2）

歳出

（単位：百万円）

項目	令和4年度	令和3年度	増減	主な増減理由
保険給付費	72,252	72,362	▲110	被保険者数の減によるもの
国保事業費納付金	24,947	25,437	▲490	被保険者数の減等によるもの
保健事業費	728	750	▲22	特定健診受診者数の減のため
その他	2,682	2,559	123	県交付金の精算による返還金増加等のため
合計	100,609	101,108	▲499	—

ポイント

被保険者数の減による事業費納付金の減少などにより、総額で前年度比約5億円の減少。

【参考】収支状況

実質収支 1,774百万円（歳入総額102,383百万円 - 歳出総額100,609百万円）
 単年度収支 ▲1,742百万円（R4実質収支1,774百万円 - R3実質収支3,516百万円）

政令市の状況（高齢化率・病院数）

高齢化率：令和4年1月現在

病院数・病床数：令和3年10月現在

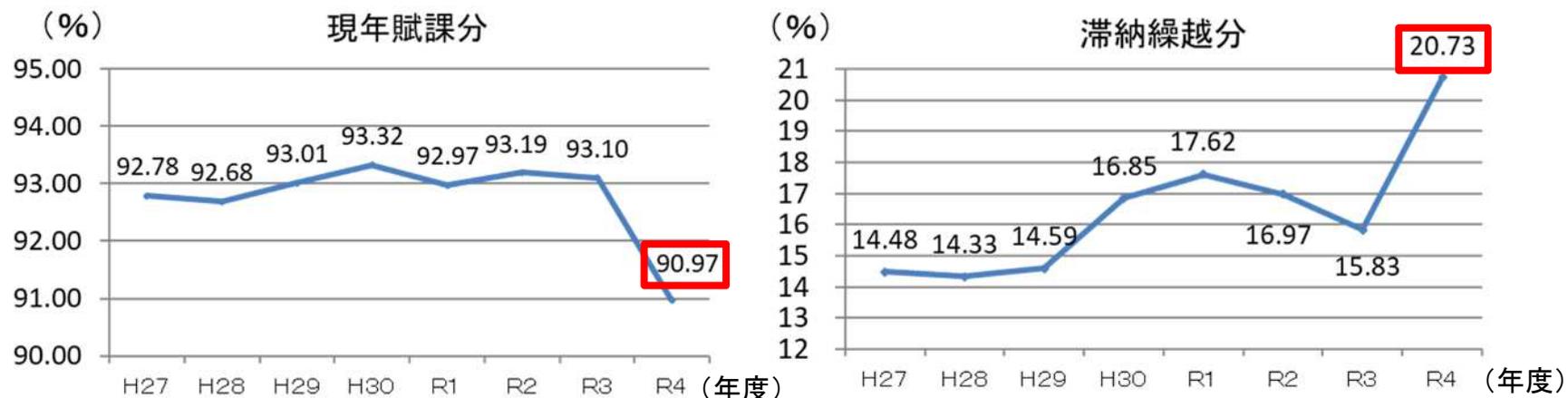
都市名	高齢化率(%)	10万人当たりの病院数	10万人当たりの病床数
北九州	31.2 ①	9.7 ③	1,981.0 ②
静岡	30.7 ②	3.9 ⑰	1,056.2 ⑭
新潟	30.0 ③	5.5 ⑩	1,335.3 ⑦
札幌	28.0 ⑧	10.2 ②	1,849.6 ③
熊本	26.8 ⑨	12.7 ①	2,021.1 ①
横浜	24.8 ⑯	3.5 ⑱	739.6 ⑱
さいたま	23.2 ⑱	2.9 ⑲	599.2 ⑳
福岡	22.2 ⑲	7.1 ⑤	1,307.4 ⑧
川崎	20.1 ⑳	2.5 ⑳	711.1 ⑲

※ ○の中の数字は、数値が大きいほうからの順番を示す

ポイント

本市は他の政令市と比較して高齢化率が最も高く、人口当たりの病院数・病床数が多い

保険料収納率の推移



【保険料収納に対する取組み内容】

- ・ 文書催告、税金料金お知らせセンターからの電話催告
- ・ 口座振替の推進
- ・ 差押えなどの滞納処分
- ・ 資格の適正管理（社会保険資格取得調査、居所不明調査など）
- ・ 納付環境の整備（ペイジー口座振替【H27年度～】、コンビニ収納【H28年度～】
クレジットカード・スマホ決済アプリによるキャッシュレス支払い【R2年度～】）
- ・ 外国人滞納者への対応
（4カ国語による未納額のお知らせ、チラシの作成・配布）

※国民健康保険料等に関する納付相談等の窓口集約化（令和4年4月実施）

これまで各区役所国保年金課で行っていた滞納整理等に係る納付相談の業務は、令和4年度から財政局債権管理室東部料金納付課（小倉北区役所内）及び西部料金納付課（コムシティ内）（※）で実施しています。

※国民健康保険料、後期高齢者医療保険料、介護保険料及び保育料の納付相談を実施

医療費適正化の取組み

- 特定健診、特定保健指導の実施

40歳以上の被保険者を対象にメタボリックシンドロームに着目した健診とその結果により、生活習慣病予防を目指した保健指導を行った。

特定健診受診率（暫定値） 令和3年度：33.9% 令和4年度：34.4%（+0.5ポイント）

- 後発医薬品（ジェネリック医薬品）利用促進

ジェネリック医薬品に切り替えた場合に効果が高いと見込まれる者に利用案内を送付するとともに「国保のてびき」に利用希望カードを掲載し、利用を促進した。

ジェネリック普及率 令和3年度：77.3% 令和4年度：79.7%（+2.4ポイント）

効果額 令和3年度：153,216千円 令和4年度：107,196千円（△46,020千円）

※効果額は調剤費の削減額（保険者負担分）から事業経費を除き、交付金を含めた収支

- 診療報酬明細書（レセプト）点検

診療報酬明細書について、過剰な診療や薬剤投与などの請求内容を区役所や会計年度任用職員（10名）でチェックした。

令和3年度実績 : 点検件数20,110件 点検効果額310,528千円

令和4年度実績 : 点検件数19,101件 点検効果額304,041千円

- **第三者行為求償**

交通事故等の第三者行為に起因する保険給付に対し、専任の会計年度任用職員（3名）により、第三者に損害賠償を求めた。

令和 3年度実績 : 求償件数 4, 362件 求償効果額 115, 501千円
令和 4年度実績 : 求償件数 3, 829件 求償効果額 111, 360千円

- **重複多受診世帯等への訪問指導**

医療機関での重複受診者及び特定健診指導対象外の者（治療中）に対し、保健師（会計年度任用職員4名）が訪問し、本人及び家族に助言・指導を行った。

令和 3年度実績 : 訪問 1, 097件 指導 593件
令和 4年度実績 : 訪問 1, 107件 指導 551件

- **はり、きゅう施術補助**

被保険者の健康の保持・増進のため、1回当たり1, 500円（はり又はきゅう）、1, 650円（はり及びきゅう）を助成。

令和 3年度実績 : 助成件数 61, 024件 助成金額 98, 805千円
令和 4年度実績 : 助成件数 57, 144件 助成金額 92, 529千円

- **医療費通知**

実際かかった医療費の確認や健康・医療への関心を高めるため、2ヵ月ごとに受診内容を通知。

通知実績 令和3年度：延べ656, 454件 令和4年度：延べ655, 184件
(▲1, 270件)

新型コロナウイルス感染症対応の主な取組み

○傷病手当金の支給

対象者：給与等の支払いを受けている被保険者（アルバイト、パートタイムなど。）のうち、新型コロナウイルス感染症又はその疑いによる療養のため労務に服することができない者

支給額：1日当たりの支給額 [(直近の継続した3月間の給与収入の合計額 ÷ 労務に服した日数) × (2/3)] × 支給対象となる日数

支給状況 ・ 76件 3,595千円（令和3年度決算額）
・ 553件 16,508千円（令和4年度決算額）

○新型コロナウイルス感染症に係る保険料の減免

対象世帯：新型コロナウイルス感染症の影響により、主たる生計維持者の収入が一定程度減少した世帯

減免額：対象保険料額（i）×減免の割合（ii）

対象保険料（i）＝保険料×減少見込みの事業収入等の所得÷世帯の合計所得

減免の割合（ii）＝前年の合計所得金額が

- ・ 300万円以下→全額
- ・ 400万円以下→10分の8、
- ・ 550万円以下→10分の6、
- ・ 750万円以下→10分の4、
- ・ 1,000万円以下→10分の2

実施状況 ・ 957件 155,864千円（令和3年度決算）
・ 195件 36,849千円（令和4年度決算）